

# 老人保健施設で働く介護者のストレスと認知症高齢者の攻撃的行動との関連

人間看護学部 人間看護学科 教授 平田弘美  
研究分野 : 老年看護学

老人保健施設などの施設において、認知症高齢者が身体的（殴る・蹴る）・言語的（暴言を吐く）攻撃的行動を伴うとなると、介護はよりいっそう困難なものになります。海外の研究結果では、認知症高齢者から受ける攻撃的行動によって、介護職者が常に身の危険を感じるといったストレスや怒りや悲しみ、うつ状態のような精神的苦痛を感じ、仕事への意欲の低下やケアの質の低下を引き起こすと報告されています。

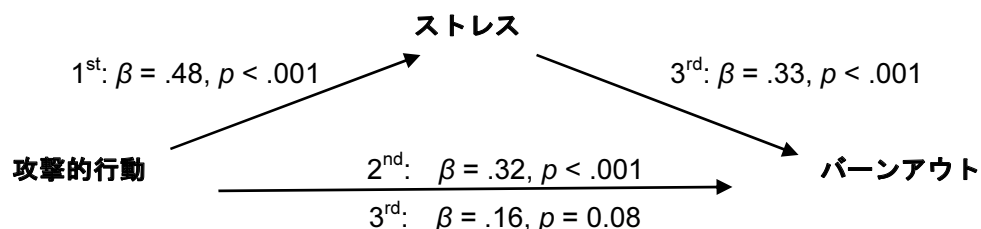
そこで、老人保健施設で働く介護者のストレスや仕事燃え尽き症候群（バーンアウト）と、認知症高齢者の攻撃的行動との関連を明らかにすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

## ■日本語版Exposure to Disruptive Behavior Scale の信頼性・妥当性の検証

カナダで開発されたThe Exposure to Disruptive Behavior Scale (EDBスケール) を日本語訳し、信頼性・妥当性の検証を行いました。 $\alpha$ 係数は0.94であり、Stressor Assessment Scaleを使った構成概念妥当性も立証されました。

## ■認知症高齢者の攻撃的行動と介護職者のバーンアウト

認知症高齢者の攻撃的行動とそれによる介護職者のストレスとバーンアウトの3つの因子のMediator effectを調べたところ、認知症高齢者の攻撃的行動による介護職者のストレスがバーンアウトに影響していることが判明しました。



## ■認知症高齢者の攻撃的行動が原因となる離職の意思

上記のように、認知症高齢者の攻撃的行動とそれによる介護職者のストレスと離職の意思（攻撃的行動が原因で、仕事を辞めたいと思う）の3つの因子のMediator effectを調べたところ、認知症高齢者の攻撃的行動による介護職者のストレスが離職の意思に影響していることが判明しました。

## ■今後の課題

これらの結果から、認知症高齢者による攻撃的行動が介護職者のストレスを引き起こし、それがバーンアウトや離職の意思へと影響することがわかりました。今後、攻撃的行動の減少とその行動から受ける看護・介護職者のストレスを軽減するために、看護・介護職者への専門的なトレーニングや教育が必要と思われる、介入研究に取り組んでいきたいと考えています。